

令和元年度 滝野中学校 学校評価(年間)

4・・・よくあてはまる 3・・・ややあてはまる 2・・・あまりあてはまらない 1・・・まったくあてはまらない

()内は、昨年度の評価

評価の観点	評価項目	実践目標と成果		評価		
生きては たらく学 力	基礎基本 の確実な 定着・学び に向かう力	実践目標	生徒が見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげよう と考える授業を実施する。	教職員	生徒	保護者
		成果	加東市学校経営研究発表会を機に、新学習指導要領を念頭に置いた授業づくりが 進んだ。	3.7		
		課題と方策	更なる「ねらい」「振り返り」取組の充実。及び、全国学力学習状況調査の分析によっ て得られた課題に関する授業づくりを進める。	(3.5)		
		先生は(学校は)、「ねらい」や「振り返り」のある、わかりやすい授業を工夫してくれる。(いる)			3.6 (3.6)	3.4 (3.3)
	思考力・判 断力・表現 力の育成	実践目標	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。	教職員	生徒	保護者
		成果	今年度全国学テ「話し合い活動を通じて考えを深められたか／自分から取り組みた か」等の質問についてポイントアップした。	3.6		
		課題と方策	学校経営研究発表会の成果を土台にして、更に新学習指導要領に基づいて授業づ くりを研修、研究していく。	(3.5)		
		先生は(学校は)、ペアやグループでの学習も取り入れながら、より深く考えたり意見を交換したり するような指導をしてくれる。(いる)			3.6 (3.6)	3.4 (3.4)
他を思い やり、互 いに高め 合う心	体験活動 等の充実	実践目標	系統的なキャリア教育を計画し、体験活動及び事前・事後指導を充実させ、達成感 や自己有用感を育む。	教職員	生徒	保護者
		成果	トライやるウィークをはじめ様々な体験活動に向けて、計画的に学習を進めることが できており、達成感や自己有用感を育む活動となっている。	3.9		
		課題と方策	体験活動で得たものを普段の生活や将来の自分づくりにつなげていくため、事後指 導をさらに充実させていく必要がある。	(3.5)		
		先生は(学校は)、事前事後も含めて達成感を味わえるように体験活動指導をしてくれる。(いる)(体 育大会・若鮎祭・「トライやる・ウィーク」・わくわくオーケストラ・スキー教室等)			3.8 (3.8)	3.8 (3.8)
	道徳教育 の充実	実践目標	ローテーション授業等を通して「考える・議論する」道徳の授業(公開)や道徳教育副 読本を活用した親子読書を年間2回以上実施する。	教職員	生徒	保護者
		成果	道徳授業内に生徒が深く考えたり、議論する場面を作れた。よりよい学びにしようと教 師間での情報交換の機会も多くなった。	3.8		
		課題と方策	22の内容項目を理解した上で展開を工夫した授業づくりを進められるようにする。また 評価に関する研修をすすめる。	(3.8)		
		先生は(学校は)、兵庫県道徳副読本「心 かがやく」等も活用しながら、豊かな心を育成するた めの指導をしてくれる。(いる)(道徳ローテーション授業・休業中の親子での道徳等)			3.7 (3.7)	3.5 (3.4)
	読書習慣 の確立	実践目標	貯本通帳を活用して、PTAと連携した「家読書」を推進する。	教職員	生徒	保護者
		成果	生徒の読書に対する意識が向上した。本のリクエストも増えており、関心が高まって いる。	3.2		
		課題と方策	貯本通帳の周知徹底。家での読書もカウントしていく。	(3.3)		
		先生は(学校は)、図書部委員の活動を支援したり、朝読書や家読書を支援したりしてくれる。(い る)(図書室開館・学級への貸出、貯本通帳等)			3.6 (3.6)	3.5 (3.5)
健康な心 身安全意 識	健康や体 力の増進	実践目標	前年度の新体力テストの分析結果に基づく体力づくりや部活動を通して、体力・運動 能力の向上に努める。	教職員	生徒	保護者
		成果	体力テストの個人データを生徒に配布し、体力・運動能力の自己の課題について考 えさせることができた。	3.6		
		課題と方策	総合的な分析結果を教職員に周知し、部活動などでも活かしていく。	(3.6)		
		先生は(学校は)、保健体育や部活動を通して健康や体力の向上のための指導をしてくれる。(い る)(体育大会・陸上練習・駅伝練習等含む)			3.7 (3.8)	3.6 (3.6)
	健康な心 身の育成	実践目標	フリーカードや年間2回以上の教育相談を実施することで、生徒の抱える悩みを早期 に発見、迅速に対応する。	教職員	生徒	保護者
		成果	いじめやケンカの事案を早期発見、迅速に対応し組織的に指導・支援することができ た。	3.7		
		課題と方策	教師は生徒の内面理解に努め、ケンカ等の生徒同士のトラブルは、生徒同士で解決 できるような支援のあり方が必要である。	(3.7)		
		先生は(学校は)、日常生活や教育相談等で、親身になって話を聞いたり相談にのってくれたりして くれる。(いる)(学習計画帳点検、悩みアンケート、日常的な教育相談、教育相談週間、スクールカウンセ ーによる相談等)			3.6 (3.5)	3.4 (3.4)
	危機管理 の充実	実践目標	危険箇所の把握等、学期に1回以上の安全点検を実施する。	教職員	生徒	保護者
		成果	常に危険箇所を意識して活動し、同時に点検もできた。	3.6		
		課題と方策	市の機関と連携をより一層深め、修繕をしていく。	(3.4)		
		先生は(学校は)、交通事故等がないように安全安心を確保するための指導をしてくれる。(いる) (交通安全教室・集会やST時の話、登下校指導等)			3.8 (3.8)	3.5 (3.5)
小中の学 びのつな がり	学習習慣 の定着	実践目標	「話すこと・聞くこと」に着目した授業づくり(指導計画)を再検討する。	教職員	生徒	保護者
		成果	小学校と連携して「話型」に関する掲示物を全ての教室に掲示し、授業に生かす環 境作りができた。	3.1		
		課題と方策	掲示した「話型」を実際に生かす授業づくりを進めていく。	(2.8)		
		先生は(学校は)、学習習慣や家庭学習の定着のための、アドバイスや指導をしてくれる。(いる) (学習の手引き・成績のあゆみ・学習計画やしおり・STやHRでの話等)			3.7 (3.6)	3.5 (3.4)

評価の観点	評価項目	実践目標と成果		評価		
小中の学びのつながり	相互授業参観の充実	実践目標	小中学校間で計画的な相互授業参観を実施する。	教職員	生徒	保護者
		成果	東小・南小の両小学校と相互に出前授業をすることができた。	3.2 (2.9)		
		課題と方策	出前授業に関わる先生だけが取り組むのではなく、全教職員に周知しながらすすめていく必要がある。			
心通う集団づくり、積極的な生徒指導	教師の協働した指導や支援	実践目標	SCやSSWを含め校内生徒支援体制を充実させ、福祉・医療機関等と積極的な行動連携を図ることで、不登校生徒を減少させる。	教職員	生徒	保護者
		成果	SC、SSWとの情報共有を徹底し組織的な支援を行うことができた。	3.6 (3.5)		
		課題と方策	不登校傾向にある生徒の早期発見、事前に対策を話し合うことで予防的な生徒支援システムを構築する。			
	生徒の内面理解と人間関係づくり	実践目標	QUテスト等を活用して、生徒の内面理解に努め、構成的グループ・エンカウンター等を活用した人間関係づくりを計画的に行う。	教職員	生徒	保護者
		成果	四辻先生のご講義や、学年で分析した結果をもとに支援を必要とする生徒への手立てを具体的に考えることができた。	3.7 (3.5)		
		課題と方策	第2回の結果返却以降の計画を練り直し、3学期や次年度に向けて有効に活用できるようにする。			
		先生は(学校は)、生徒をよく理解し、つながりのある集団をつくらうとしてくれる。(いる)(球技大会等の学年行事、QUテスト、縦割り活動、生徒会活動等)			3.6 (3.6)	3.6 (3.6)
	ネットトラブル等の課題の克服	実践目標	ネットトラブル等の課題を克服するため、生徒会が主体となって作成した市内統一のネット・SNS利用規約の遵守を徹底する。	教職員	生徒	保護者
		成果	全校集会でSNSルールについて説明をしたり、四校・小中交流会で他校の生徒と意見を交わしたりして、今後の取り組みを考えられた。	3.3 (3.4)		
		課題と方策	小中一貫を見据え、統一した分かりやすい表現を考えるとともに、中学生が見本となるよう、全校集会で周知徹底を図っていく。			
		先生は(学校は)、ネットトラブル等のトラブルに巻き込まれないように、話や指導をしてくれる。(道徳、集会時の話、情報教育講演会、SNSルール等)			3.7 (3.6)	3.5 (3.5)
特別支援教育	一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援	実践目標	個別の指導計画に基づき、共通理解を図り、きめ細かく適切な支援を行う。	教職員	生徒	保護者
		成果	指導日誌の利用、同一教科を担当するもの同士の打ち合わせを密に行った。	3.2 (3.4)		
		課題と方策	サポートファイルの定期利用をすすめ、エピソード記録や経過記録などを残していく。			
		先生は(学校は)、一人一人の特性に応じた支援や指導をしようとしてくれる。(いる)(家庭訪問、三者面談、個人面談等)			3.6 (3.5)	3.4 (3.4)
	交流及び共同学習の推進	実践目標	交流学級や他校生徒との交流及び共同学習を年間5回以上実施する。	教職員	生徒	保護者
		成果	市内中学校の交流会に積極的に参加し、交流を深めることができた。休み時間に他校生徒と一緒に遊ぶなど、自ら関わりを持とうとする姿が見られた。	3.2 (3.4)		
		課題と方策	交流学級で学ぶ際の授業のユニバーサルデザイン化の充実。			
	切れ目のない生徒支援	実践目標	加東市発達サポートセンター「はびあ」と連携してデリコラ(巡回相談)等を活用して、切れ目のない生徒支援・家庭支援を行う。	教職員	生徒	保護者
		成果	「はびあ」で行った発達検査の結果をもとに、担当者、保護者とともに面談を実施するまど、連携を図ることができた。	3.4 (3.5)		
		課題と方策	小中連携においては、情報の共有をさらに蜜にする必要がある。中高連携シートなどを活用し、積極的な運用を図る必要がある。			
働きやすい職場環境づくり	生徒と向き合う時間の確保	実践目標	生徒と向き合う時間をできるだけ多く確保する。	教職員	生徒	保護者
		成果	教職員が生徒についての情報を共有して、それぞれの生徒や保護者に対して見通しをもって組織的に指導・支援を行うことができた。	3.5 (3.2)		
		課題と方策	現在の教職員の業務を見直し、連携・分担すべき業務、精選すべき業務を明確にするとともに、必要な支援体制を整備する。			
		先生は(学校は)、日常生活や教育相談等で、親身になって話を聞いたり相談にのってくれたりしてくれる。(いる)(学習計画帳点検、悩みアンケート、日常的な教育相談、教育相談週間、スクールカウンセラーによる相談等)			3.6 (3.5)	3.4 (3.4)
	定時退勤日	実践目標	毎週1回の「定時退勤日」を保護者等へ周知するとともに、教職員の共通理解のもと、確実な実施を推進する。	教職員	生徒	保護者
		実践目標	教職員の意識はかなり向上し、何もなければほぼ実施できている。	3.7 (3.5)		
		課題と方策	生徒指導や保護者対応など、どうしても退勤できない場合がある。退勤できなかった人は、別の日と振替えて実施する。			
	ノー部活デー	実践目標	練習計画表を校内掲示することで、生徒や教職員に周知を図り、「ノー部活デー」を確実に実施する。	教職員	生徒	保護者
		成果	教職員一人ひとりに部活動予定を配布し、意識の向上につなげた。	3.9 (3.8)		
		課題と方策	強化月間の確認や長期休業日間のルール、休養日の振り替えを確認し、適切な休養日が設定できるように図る。			

※生徒・保護者の評価結果は、生徒・保護者アンケート質問項目にもとづいたものです。